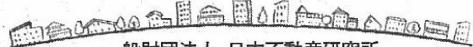


~文化的歴史的所産を巡る~ 残したい情景

第36回 福岡県福岡市



一般財団法人 日本不動産研究所



町屋が残る上呉服町の街並み

商人の町として栄えてきた
博多。その中心部は、1587年の「太閤町割り」と呼ばれる区画整理事業で骨格がつくれられたことは、あまり知られていない。豊臣秀吉による町割りの結果、間口が狭く奥行きの深い独特的な町屋区画が出来上がった。間口5尺、奥行20尺程度の細長い区画だ。

うどん発祥の地

現在、博多で町屋が残っているのは上呉服町などわずかなエリアだけだ。考えられる理由は、福岡市が先の大戦でB29の大空襲を受けて焦土と化したため、武家屋敷や町家などが残っていないからだろう。さて、わずかに町家が残る上呉服町は、博多駅の隣駅である地下鉄「祇園」駅から徒

歩5分程度、大博通りの背後にたたずむように存在する。造家屋の店舗化に追い風に博多町家が点在するその範囲は予想外に小規模で、京都の町屋や金沢の茶屋街と比較するとほぼ残っていないと言ったほうが正しいかもしない。

ただこの町の一隅には「承天寺」や「聖福寺」など博多を代表するそつそつたるお寺群がある。そのお寺の一つ「承天寺」は日本におけるうどん・そば・饅頭の発祥の地となる「太閤町割り」が起源と言われる。御笠川と博多川に挟まれた一帯で町割り（区画整

博多を彩る町屋の利活用 太閤町割りから続く商人の町

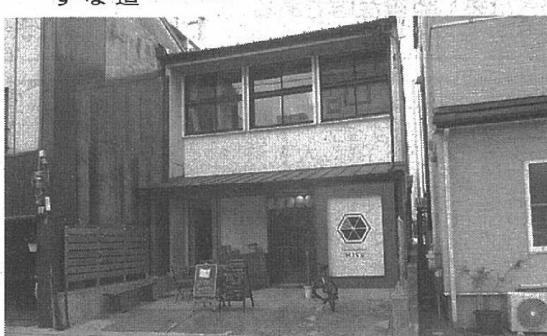
（九州支社／不動産鑑定士・
山崎健二）

多部一番地なの町家の利用形態現存している町家の利用形態となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東山笠の曳山を持つ町内の発祥たり、カフェバー設だつたり、宿泊施設だつたり、商売を営んでいるケースが多い。このところ上呉服町には町家を改造して飲食店や旅館にする例が増えている。建築確認不要な用途変更の規模が20

多部一番地なの町家の利用形態現存している町家の利用形態となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東山笠の曳山を持つ町内の発祥たり、カフェバー設だつたり、宿泊施設だつたり、商売を営んでいるケースが多い。このところ上呉服町には町家を改造して飲食店や旅館にする例が増えている。建築確認不要な用途変更の規模が20

多部一番地なの町家の利用形態現存している町家の利用形態となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東山笠の曳山を持つ町内の発祥たり、カフェバー設だつたり、宿泊施設だつたり、商売を営んでいるケースが多い。このところ上呉服町には町家を改造して飲食店や旅館にする例が増えている。建築確認不要な用途変更の規模が20

多部一番地なの町家の利用形態現存している町家の利用形態となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東山笠の曳山を持つ町内の発祥たり、カフェバー設だつたり、宿泊施設だつたり、商売を営んでいるケースが多い。このところ上呉服町には町家を改造して飲食店や旅館にする例が増えている。建築確認不要な用途変更の規模が20



用途変更の規制緩和が木造家屋の店舗化に追い風となり、飲食店や旅館に改修する例が増えている